

童話『ごん狐』新美南吉 (愛知県、半田市)

会誌編集専門委員会

■ 小学校の国語教科書

今年は新美南吉の生誕100年にあたる。ピンと来ない方には、小学校の国語の時間に習った『ごん狐』の作者と言えばわかってもらえるだろうか。1956年に初めて小学4年の国語教科書に取り上げられて以来、今ではすべての教科書に掲載され続けている。ほとんどの日本人が読んで大ベストセラー作品か。『ごん狐』に触発されて他の作品を読むために南吉の本を手にとった方も多いのではないだろうか。教科書の『ごん狐』を覚えている方は非常に多く、「初めて、本を読んで感動した」と言った方もいるくらいだ。

南吉の代表作となる『ごん狐』は、雑誌「赤い鳥」の1932年1月号に初めて掲載された。出身地である現在の愛知県半田市の岩滑地区の矢勝川や、隣の阿久比町にある権現山を舞台に書かれたといわれている。江戸から明治の頃のお話である。



写真1 新美南吉童話集『ごんぎつね』の表紙

■ あらすじ

一人ぼっちの小狐ごんはある日、兵十が川で捕ったウナギを逃すという悪戯をする。しばらく後、兵十の母親の葬列を見て、あの時のウナギは病気の母親に食べさせるものだったと知り後悔する。

ごんは自分と同じ一人ぼっちになった兵十に同情し、償いのつもりで、イワシを盗んで兵十の家に投げ込む。ところが翌日、兵十がイワシ泥棒と間違われて殴られたことを知り、自分の力で償いを始める。それは山で採った栗や松茸をこっそり兵十の家に置いて来ることであった。しかし兵十は、毎日届けられる栗や松茸の意味がわからなかった。

そんな時、ごんが家に忍び込むのを見た兵十は、また悪戯に来たのだと思い、火縄銃でごんを撃つ。倒れたごんの傍らに寄ると、土間に栗が固めて置いてあるのに気づき「ごん、お前だったのか。いつも栗をくれたのは」との問いかけに、力なくごんがうなづく。兵十の手から火縄銃が落ち、青い煙が筒口から出ているところで、物語が終わる。



写真2 中山の地(新美南吉記念館童話の森)



写真3 矢勝川

■ 新美南吉

1913年7月30日、愛知県半田生まれの南吉は4歳で母を亡くし、6歳のとき継母を迎え、8歳で養子に出されるが、寂しさに耐えられず実家に戻るといいう生い立ちであった。県立半田中学(現在の半田高校)2年の頃から、童謡や童話を創り始め雑誌に投稿していた。中学卒業後の18歳で半田第2尋常小学校の代用教員となり、『ごん狐』などの作品を書く。翌年に東京外国語学校英文科へ入学し、勉学の傍ら先輩や友人らとの交流により児童文学を深めていく。しかし病魔に侵され24歳で帰郷する。療養後、河和第1尋常小学校代用教員の勤めに出る。25歳で安城高等女学校(現在の安城高校)の教師に転職し、生徒の詩や自分の作品をハルピン日々新聞に寄稿したりして、比較的充実した生活を送る。しかし、病を押して作品を書き続けたことで病状が悪化し、女学校を辞めざるを得なくなる。1943年3月22日の午前8時、父母に看取られ、29歳7カ月の短い生涯を終える。喉頭結核であった。没後、多くの作品が出版され、広く知られるようになった。

■ 『ごん狐』の舞台

・ 中山の地:物語の舞台。

新美南吉記念館童話の森周辺は、『ごん狐』冒頭の中山氏の城跡だと伝えられてきたところ。しかし土塁等の跡がなく、実際の居城は町中にあったと考えられている。

・ 矢勝川:兵十がウナギを捕っていた川。

半田池から流れ出て、阿久比川に注ぐ川。背戸川(裏の川)とも呼ばれる。今ではコンクリート張り護岸の部分もあるが、秋の彼岸には近年植えられた多くの彼岸花で彩られる。

・ 六地藏:ごんが兵十の母親の葬列を隠れ見るところ。

北谷墓地入り口を歩いてすぐ左側にあるのが岩滑の六地藏。1933年に半田市内の4つの墓地を集めてつくられた際に六地藏もこの墓地に移された。旧墓地は、今はその跡形もない現在の岩滑コミュニティセンター付近。

・ 権現山:ごんが住んでいるとされた小山。

阿久比町植大にある小山で、山頂には昔から「権現さん」と呼ばれてきた五郷社が鎮座する。南吉が子どもの頃、この辺りに狐が住んでいて『ごん狐』の由来になったと考えられている。自然に恵まれた地で、1984年に境内は「植公園」となった。鳥居脇に「ごんぎつね」の石像がある。

(文 塚本敏行)

<参考資料>

- 1) 新美南吉童話集『ごんぎつね』新美南吉 偕成社 2005年
- 2) 『童話の森 新美南吉記念館』パンフレット 新美南吉記念館
- 3) 『新美南吉記念館ホームページ』
(<http://www.nankichi.gr.jp/index.html>)
- 4) 『南吉のふるさと 半田』パンフレット 新美南吉顕彰会(新美南吉記念館内)
- 5) 『ごんぎつねものしり図鑑(半田市教育委員会)』
(<http://www.handa-c.ed.jp/nankichi/index.html>)

<写真提供>

- 写真1、5、6 塚本敏行
写真2、8 大波修二
写真3、4、7 佐々木勝



写真4 六地藏(北谷墓地)



写真5 ごんの名前の由来とされる権現山



写真6 五郷社の鳥居脇の「ごんぎつね」像



写真7 『権狐』自筆の草稿碑(新美南吉記念館童話の森)



写真8 アルミ缶で作られた「ごんのモニュメント」(新美南吉記念館入口)